

新宮山彦ぐるーぷ第2190回

## 台風4号接近のため行仙宿周辺整理

◇実施日 7月3日(日) 雨時々曇り

◇参加者 沖崎吉信、湯川一郎、梶野照雄 3名

当初は補給路の段差改修を計画していたが、前日までの好天から打って変わって3日の朝起きると雨が降っていた。午前6時過ぎに沖崎さんから電話で「雨降ってるので、どうする？」と問い合わせがあった。とりあえず登山口まで行って、状況を見て判断する。と答えて家を出た。

午前9時過ぎに四ノ川林道に入り500mほど進んだところに放置されていた2.5m位の丸太をチェーンで車に繋いで登山口に運んだ。登山口手前で後ろから沖崎車が現れ、同時に登山口に着いた。雨は小降りになり、空も少し明るくなってきた。モノレールで終点まで登り、碎石15kgを3人で分けて補給路の補修現場まで運んだ。碎石を補給路に敷き詰めた後、立てかけてあった丸太や杭を少し上の木が繁っている場所に移動する。丸太や木杭は40本近くあり、補修現場で使うには多すぎる。行仙宿側の補給路に腐った栈木が多く見られるので、少し上まで運んで徐々に交換していくのが良いと思う。午前11時過ぎに行仙宿到着。ハシゴを立てて屋根に上り煙突の隙間に耐火パテを詰める。耐熱温度は1、100℃だが、耐水かどうかは不明なので次回に状態を確認したい。



丸太を登山口に運ぶ



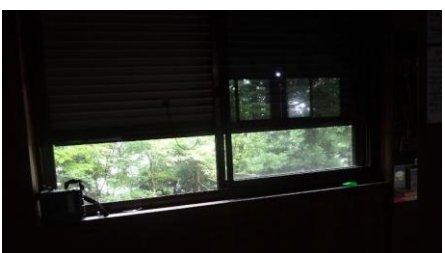
碎石を運ぶ



行仙宿に到着



耐火パテを詰める



雨戸を降ろす



本日の参加者

12時前になり昼食を摂る。昨日、おとといと異常な暑さが続いていたが、今日は外でじつとしていると寒さを感じるくらい気温になっている。

昼食中に沖崎さんが私の首筋にヒルが付いているのを見つけた。ペーパータオルで取ってみると、丸々と太ったヒルが一匹採れた。

そのままストーブで火葬したが、屋根の上でヒルが付くはずがなく、補給路の丸太移動中に木が繁った中に入ったので、その時に付いたとしか考えられない。所謂“専門家”という人の中には「ヒルは足元から来ます。頭の上からは来ません」という人もいるが、この人たちは経験がないのでそんな風に断言するのだと思う。

数年前に前鬼の林道を車で走っている時、窓から出した腕に冷たいものを感じ、見るとヒルが付いていた。前鬼では小仲坊に立ち寄っただけなのでヒルがいそうな場所には行っていない。車なので地上からは進入できない。ヒルは空を飛ばないので頭上の木の枝から落ちてきたとしか考えられない。

まだ出血していたので絆創膏を貼ってもらった。帰ってから鏡を見て観察すると、5mmほど離れて2ヶ所の傷があった。2ヶ所から血を吸って満腹になったが、ストーブの中で昇天した。

小屋周りの風で飛びそうなものを固定し、東側の雨戸を降ろし戸締りを確認して下山した。途中で鉄塔傍からバケツに2杯ずつ小石を集め、補修現場に敷いた。

(記：梶野)



碎石を敷いた補修箇所



下山

### 行動タイム

09:30 補給路登山口→11:18 行仙宿 12:52→13:45 補給路登山口